

令和6年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体をもち、知性と創造性に富む実践力のある子供の育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

子供が、教職員が、保護者が、地域の人々が、誰もが生き生きと輝く学校をめざす。

- (1) 子供が夢や目標に向かって 主体的に活動に取り組む学校
- (2) 知・徳・体の調和のとれた発達と協働する力を育む学校
- (3) 教職員が専門性を発揮し、チーム力を高めて創意工夫に取り組む学校
- (4) 児童・保護者・地域との信頼関係を築き、家庭や地域の教育力を生かす学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○主体的に学習に取り組む態度を育成するとともに、各種学力調査問題を活用しながら、基礎的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等を育む学習指導の充実に努める。
- (2) 「宮っ子心の教育」を推進し、個に応じた支援及び認め励ます教育の充実に図りながら、児童にとって居がいのある温かい雰囲気のある学校経営、学級経営に努める。
- (3) ○心身ともに健康で安全な生活を送るために、体力向上や保健教育、食育、安全教育に関する指導の充実に図る。
- (4) 信頼される教職員を目指して個々の資質・能力の向上を図るとともに、教職員組織のチーム力を高め、働き方改革を推進する。

【若松原地域学校園教育ビジョン】「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWG S学校園」
小学校入学から中学校卒業・進路の実現までの9年間の学校教育を、「かかわる教職員の思いと責任を共有し連携をして、児童生徒のそれぞれの発達段階に応じた一貫性のある教育や指導」として継続的に実践する。

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や新学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学びどのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 現代的な課題（SDGs、デジタルシティズンシップ等）に対応できる資質能力を育成するため、教科等横断的な視点で関連付けを図る。
- (4) 児童の発達の支援、家庭や地域との連携・協働を大切にする。
- (5) 持続可能な社会の創り手となるよう、児童が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を育むことができるよう工夫する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1)学校運営

○児童が主体的に学習に取り組めるよう授業づくりを工夫するとともに、学び合い活動の充実に図ることによって、深い学びにつなげられるようにする。

・学級活動や児童会活動、学校行事等を通して、児童の主体的な取組と協働を支援し、達成感や充実感を味わわせることにより、自己有用感や自己肯定感の高揚を図る。

・特別支援教育への理解を深め、全校体制で支援の充実に努める。（一人一人の教育的ニーズの把握、校内委員会の充実、医療的ケア支援員等校内関係スタッフとの連携と効果的な活用）

・コロナからのリカバリー期として設定した体験活動等を確保するための学習活動や行事等の再構築を検証する。

・学校の重点課題を明確にし、課題解決に向けた取り組みを効果的、効率的に実施できるよう教職員の意識改革と協働的な体制づくりを進めていく。また、教職員が児童と向き合う時間を確保できるよう業務を精選するとともに、保護者や地域に向け、学校の働き方改革について情報を発信し、理解を求めていく。

(2)学習指導

○基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

- ・「宇都宮モデル」を活用し、精選した目当てを示し、自ら考え、共に学び合う時間を意図的に組み入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図る。
- ・基本的な学習態度・学習技能の習得を基に、一人一人に応じたきめ細かな指導を展開し、基礎・基本の確実な定着を図る。（少人数指導、かがやきルームの活用、朝の学習の効果的な運用）
- ・学年に応じた家庭学習の内容や進め方を示し、児童が自主的、主体的に家庭学習に取り組めるよう支援する。
- ・一人一台端末を活用した授業改善を継続するとともにAIドリル等を活用した学習の基盤となる能力の向上、デジタルシティズンシップの育成に取り組む。

(3) 児童生徒指導

- 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。（帰属意識の高い学級づくり）
- ・自ら課題に立ち向かい、思いやりと協働を実行し、自他共に成長できる学習集団の雰囲気をつくることで、学力向上の基盤となるようにする。

(4) 健康（保健安全・食育）・体力

- 地域学校園の児童生徒の実態を把握、分析したうえで、義務教育9年間を通して、健康に関する自己管理能力や体力の向上、安全に配慮し行動できる力、望ましい生活習慣や食習慣を身に付ける力を育てる。
- ・自らの健康について関心をもち、健康の保持増進に努めるための判断や行動ができる実践力を養うために、担任・養護教諭・栄養教諭が連携して指導にあたる。
- ・交通ルールの順守や自転車乗車時のヘルメット着用について日常的に指導し、交通安全の意識の高まりを実践につなげられるようにする。

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、学習課題を解決するために、友達と話し合ったり、必要な情報を集めたりしながら、じっくり考え、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・児童が主体的に学習に取り組めるように学習課題の内容や設定の仕方を工夫し、様々な学習形態を取り入れた学び合いを実施する。 ・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示とともに、「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ、各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.9% ↑ (88.5%) を示し、数値指標 85% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 84.1% ↓ (87.3%)、教職員 93.8% ↓ (96.8%) であった。 【次年度の方針】 ・児童が見通しをもつことができるような「めあて」の提示、「めあて」に即したまとめと振り返りを充実させ、各時間での学習内容の定着や達成感を味わうことができるような授業展開を行う。 ・個人の学びを集団で練り上げる学び合いの場面では、安心して自分の考えを表現できるような環境を整えていく。また、相手に分かりやすく伝えたり、自分の考えと比較して意見を述べたりできるよう、自分の考えを伝える力の育成に努める。

1ー(2) 豊かな心を 育む教育の 推進	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 保護者アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」⇒肯定的回答 90%以上	・児童同士が感謝の気持ちを言葉として表す活動を帰りの会や学級活動を通して、常時行うことで、互いに思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図るとともに、児童が直面した諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく、全教職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は 89.7% ↓ (90.6%)であった。数値指標 90%をやや下回った。 ・児童の肯定的回答率は 87.5% ↓ (88.7%)であった。 【次年度の方針】 ・帰りの会や学級活動を通して、児童同士が感謝の気持ちを伝え合う活動を常時行うことで、思いやりの心を醸成していく。 ・道徳科及び、学校で行われる全ての活動において、道徳教育の充実を図る。また、児童が直面する諸問題について、学級または学年で望ましい行動を話し合い、実践できるようにしていく。 ・学年や学級に関係なく、全教職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。
	A 3 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」⇒肯定的回答 85%以上	・クラス全体の学習のめあてだけでなく、個々が自分の目標を設定し、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を支援していくことで、達成感を高めていけるようにする。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.3% ↓ (88.0%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 76.7% (76.8%)、教職員 93.8% ↑ (90.3%)であった。 【次年度の方針】 ・今後もクラス全体の学習のめあてだけでなく、個々が自分の目標を設定し、目標に向かってあきらめずに粘り強く取り組んでいこうとする意欲や態度を支援していくことで、達成感を高めていけるようにする。
1ー(3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、健康や安全に気を付けて生活している。」⇒肯定的回答 90%以上	・汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用、前向き給食等）を通して、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ対策の指導を徹底させる。また、給食後の歯磨き指導を行い、むし歯予防に努める。 ・靴下や下着、体育着の着用の仕方、五代の子のきまりとして文書を通して家庭に周知し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・スタンダードダイアリーに加え、電話連絡やさくら連絡網、タブレットクラスルーム機能も活用し、児童の健康状態の把握に努め、気になる児童には個別に指導を行う。 ・集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	【達成状況】 ・児童の肯定的割合は 89.8% ↑ (89.2%)を示し、昨年度の数値をやや上回ったものの数値指標をやや下回った。 ・保護者の肯定的割合は 88.0% (87.9%)であった。 【次年度の方針】 ・引き続き、汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットや必要に応じてマスクの着用、前向き給食等）を通して、コロナやインフルエンザ等の感染症対策の指導を徹底させる。また、給食後の歯磨き指導を行い、むし歯予防に努める。 ・靴下や下着、体育着の着用の仕方について体育の授業や学校行事を通して指導し、児童・保護者の意識の高揚に努める。 ・スタンダードダイアリーに加え、電話連絡やさくら連絡網、タブレットクラスルーム機能も活用し、児童の健康状態の把握に努め、気になる児童には個別に指導を行う。 ・引き続き、集団登下校や自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、不審者侵入想定避難訓練、児童引渡し訓練を通して、自己保全能力の育成を図る。下校指導には全職員が当たり、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。

1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、自分の良さや考えを生かしたり、周りと協力し合ったりして、進んで生活をよりよくしようとしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・定期的に自己の生活を振り返ることで、自己理解を深め、自分のよさに気付かせたり、成長を実感させたりする。 ・学習や生活の中で、協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで、集団で協力することのよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動、行事等において、児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し、児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等、児童一人一人のよさを認め励ましていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.8% (87.0%)であり、数値指標 85%を上回った。 ・教職員の肯定的回答率は 93.8%↑ (87.1%)であった。 【次年度の方針】 ・定期的に日々の生活を振り返ることで自己理解を深め、自分のよさに気付かせたり、成長を実感させたりする。 ・協力して取り組むことで解決できる課題や活動を意図的に取り入れることで、集団で協力することのよさを実感させる。 ・学級活動や特別活動、行事等において、児童が主体的に参加し活躍できる場を設定し、児童のよさを発揮する機会を充実させる。 ・学校全体での表彰や学年学級での表彰等、児童一人一人のよさを認め励ましていく。特に全校児童の前で表彰する機会を増やしていく。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、外国語活動(英語)の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、児童が意欲的に取り組める活動を取り入れ、さらなるコミュニケーション能力の向上を図る。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 80.3%↑ (76.7%)であり、昨年度の数値を上回ったが数値指標 85%を下回った。 ・教職員の肯定的回答率は 93.8%↓ (96.8%)であった。 【次年度の方針】 ・簡単な英語表現に繰り返し触れさせたりALTと協力したりしながら、児童が意欲的に取り組める活動を取り入れ、さらなるコミュニケーション能力の向上を継続的に図る。 ・ALTと事前に打ち合わせを重ねるなどして、指導力の向上を図る。
	A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・今年度の具体策を確実に実施するとともに、さらに「良さ」を紹介していく機会を増やし、郷土への思いを高めていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 84.9% (85.0%)を示し、昨年度の数値と今年度の数値指標 85%と同程度である。保護者は 72.4%↑ (67.2%)、教職員は 78.1%↓ (83.9%)であった。 【次年度の方針】 ・今年度、児童の数値指標とほぼ同程度で、目標を達成することができた。学校での取組を保護者や地域の方に知っていただく機会を増やして連携していきたい。

2- (2) 情報社会と 科学技術の 進展に対応 した教育の 推進	A 8 児童は、1人1台端末 や図書等を学習に活用し ている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、パ ソコンや図書等を学習に活用 している。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・目的に応じて ICT 機器や図書等を効果的に活用するなど、情報活用能力を高める活動を取り入れていく。 ・総合的な学習の時間や教科等の授業で、積極的に図書室を利用し、また、端末の併用により相乗効果を生み出す活用法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理し、活用できるようにするとともに、巡回図書も積極的に活用していく。	A 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.0% ↑ (85.2%)で あり、数値指標 85%を上回っている。 ・教職員の肯定的回答率は 100.0% ↑ (96.8%) 保護者の肯定的回答率は 84.1%(84.0%)であった。 【次年度の方針】 ・目的に応じて ICT 機器や図書等を効果的に活用するなど、今後も情報活用能力を高める活動を取り入れていく。 ・様々な教科等で、積極的に図書室を利用し、また、端末の併用により相乗効果を生み出す活用法を検討していく。 ・調べ学習等で使用する図書を整理し、活用できるようにするとともに、巡回図書も積極的に活用していく。 ・引き続きデジタルシティズンシップ教育に関する職員研修の機会を設け、職員も学びを広げ、指導に役立てていく。
2- (3) 持続可能な 社会の実現 に向けた担 い手を育む 教育の推進	A 9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・様々な教科で SDGs について取り上げるようにするとともに、児童会活動や給食等で児童の具体的な実践も行っていくなど具体策を続けていくことで、ごみの減量等、学年に合わせた形で考えさせられるよう支援していく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 88.8% ↑ (85.0%)を示し、数値指標 80%を大きく上回っている。 ・教職員の肯定的回答率は 71.9% ↓ (83.9%)であった。 【次年度の方針】 ・SDGs に関する具体的な取組が特別なものではなく日常的になってきているともいえる。児童会活動・給食・ごみの減量等、教職員が意識的に指導に当たるようにしていく。
3- (1) インクルー シブ教育シ ステムの充 実に向けた 特別支援教 育の推進	A 10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒肯定的回答 95%以上	・学年、ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い、担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の情報を確実に把握し、次年度への担任をはじめとする当該児童の関係者にスムーズに引継ぎを行う。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長期目標と、それを達成するための短期目標を定め、当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し共有することで、担任以外の教職員が対応することができるようになり、次年度への引継ぎがよりスムーズに進めたりできるようにする。	B 【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 93.8% ↓ (100.0%)で、数値指標 95%を下回っている。 【次年度の方針】 ・学年、ブロックを中心に日頃から教職員同士が声を掛け合い、担任一人が抱え込まないように組織的に対応する。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気醸成する。 ・外部機関とつながりのある児童の情報を確実に把握し、次年度への担任をはじめとする当該児童の関係者にスムーズに引継ぎを行えるシステムを構築する。 ・支援を要する児童の実態を把握し、長期目標と、それを達成するための短期目標を定め、当該児童に効果的な方法を見付けていく。 ・児童の特性や配慮事項などを細やかに記録し共有することで、担任以外の教職員が対応することができるようになり、次年度への引継ぎがよりスムーズに進めたりできるようにする。

3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上 保護者アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・ いじめは決してあってはならないことだということを 4 月の学級開きから、年間を通して継続して指導することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気醸成し、いじめを予防していく。 ・ 児童だけでなく、保護者との信頼関係の構築に努め、児童一人一人が安心して学校生活が送れるように協力体制を築いていく。 ・ いじめに関するアンケート、教育相談を定期的実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・ 児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・ いじめゼロ強調月間において、児童会主体の活動を行うことで、児童の意識を高めていく。 ・ 学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信することで、地域とも連携して取り組めるようにする。 ・ 読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 ・ 職員研修の充実を図り、いじめや人権への理解を深め、指導力向上に努める。	【達成状況】 ・ 児童の肯定的回答率は 95.9% ↓ (97.3%) で、数値指標 95% を上回っている。 ・ 保護者の肯定的回答率は 76.2% (76.6%) で、数値指標 80% を下回っている。 【次年度の方針】 ・ 4 月の学級開きから、年間を通して継続して指導することで、学級や学校にいじめを許さない雰囲気醸成し、いじめを予防していく。 ・ 児童だけでなく、保護者との信頼関係の構築に努め、児童一人一人が安心して学校生活が送れるように協力体制を築いていく。 ・ いじめに関するアンケート、教育相談を定期的実施し、いじめの早期発見に努める。また、児童の不安感解消を第一に考え早期対応に努めていく。 ・ 児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年や児童指導主任、管理職と共有し、さらに全職員で共通理解を図る。 ・ いじめゼロ強調月間において、児童会主体の活動を行うことで、児童の意識を高めていく。体育館で実施してもよい。 ・ 学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信することをさらに充実させていく。より積極的に閲覧を呼び掛けるなど、保護者や地域とも連携して取り組めるようにする。 ・ 読書の時間に担任によるいじめに関する本の読み聞かせを行ったり、人権に関する作文（あすへのびる）を読む時間を設けたりするなど、自他の人権への関心を高める。 ・ 職員研修の充実を図り、いじめや人権への理解を深め、指導力向上に努める。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 保護者アンケート「教職員は、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励ましかう学級づくりを行っている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・ 児童一人一人のよさが発揮され、居がいのあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・ 学級活動や道徳科、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・ 学校生活における児童の頑張りやよさ、取り組み等を保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・ 一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。	【達成状況】 ・ 保護者の肯定的回答率は 89.4% ↑ (88.4%) で数値指標 85% を上回っている。 ・ 児童の肯定的回答率は 95.1% (95.2%) であった。 【次年度の方針】 ・ 児童一人一人のよさが発揮され、居がいのあるクラスづくりを行い、児童の自己肯定感を高めていく。 ・ 学級活動や道徳科、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気醸成していく。 ・ 学校生活における児童の頑張りやよさ、取り組み等を学校ホームページ、学年便り等を通じて保護者に伝えていくことで、児童や保護者との信頼関係を築いていく。 ・ 一人一人の児童に対し、教育的愛情をもって接し、認め励ましていく。 ・ 気になる児童には、早期に声掛けや面談を行う。

3- (3) 外国人児童生徒等への 適応支援の 充実	A13 学校は、一人一人が大 切にされ、活気があり、 明るくいいきとした雰 囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、 困ったときに相談に乗ってく れたり、問題を解決しようと したりして、私たちが楽しく 学校生活を送れるようにして いる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ・小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業や進学先中学校訪問、児童指導連絡会等、児童生徒の健全育成のための方策を中学校と連携して考え、実践する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的割合は 94.0% ↓ (95.2%) を示し、数値指標を達成できた。 ・保護者の肯定的割合は 91.9% ↑ (89.7%) を示し、昨年度の数値を上回り、達成状況も良好である。 【次年度の方針】 ・学級経営を中心として、授業や特別活動、なかよし班活動等において、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ・引き続き、児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。 ・小中一貫教育実施に伴い、乗り入れ授業や進学先中学校訪問、児童指導連絡会等、児童生徒の健全育成のための方策を中学校と連携して考え、実践する。
4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の 授業は分かりやすく、一人 一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 95%以上	・職員研修や授業研究の機会を充実させ、教員間での学び合いを深めることで、指導力（授業力）を向上させる。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・児童の学びが継続していくような学習の進め方を統一することで、学年や担任が代わっても授業形態が変わらないようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 95.6% ↓ (96.3%) で数値指標 95% を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 88.6% ↑ (80.7%) で昨年度の数値を大きく上回っている。 【次年度の方針】 ・職員研修や授業研究の機会を充実させ、指導力のさらなる向上を図る。 ・児童の実態に合わせ、個に応じたきめ細やかな支援を継続していく。 ・学習の進め方を統一することで、学年や担任が代わっても児童の学びが継続していくようにする。 ・きめ細やかな学習指導を行うために、教職員の情報のやり取りを密にすることで児童理解を深め、教材研究に生かす。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでい る。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に 関わる職員全員がチームとな り、協力して業務に取り組ん でいる。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・学年・ブロック、校務分掌等で課題を共有し、PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画に基づいた具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 100.0% ↑ (96.8%) を示し、数値指標 90% を大きく上回っている。 【次年度の方針】 ・学年・ブロック、校務分掌等で課題を共有し、PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画に基づいた具体策を引き続き確実に実施していくとともに、一人で抱え込まないようお互いに声を掛け合って業務にあたっていけるようにする。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、 教職員の勤務時間を意識し て、業務の効率化に取り組ん でいる。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・アフターコロナで混沌としてしまった行事等の精選や、日課を工夫するなど改善策を図り、業務の効率化に取り組んでいく。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 93.8% ↑ (87.1%) を示し、数値指標 85% を大きく上回っている。 【次年度の方針】 ・取組は十分進んだが、さらに行事等の精選や、日課を工夫するなど改善を図り、業務の効率化に取り組んでいく。

5- (1) 全 市 的 な 学 校 運 営 ・ 教 育 活 動 の 充 実	A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、地域学校園の小学生や中学生、先生と、授業や行事、掲示物などで交流する活動を行っている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・ 意義のある乗り入れ授業や中学校訪問になるように、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また地域学校園教科部会・分科会の機会において、職員が相互理解を図ることができるようになる。 ・ 運動会での水まきや陸上練習、小中合同あいさつ運動等、学校行事や地域学校園行事において、児童生徒の交流がさらに深まるように計画する。 ・ 要請訪問等、若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛ける。	B 【達成状況】 ・ 肯定的割合は児童が 89.7% ↑ (85.5%)、保護者が 81.7% ↑ (74.3%)と肯定的回答は昨年度の数値や今年度の数値目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・ 児童に直接関わる乗り入れ授業や中学校訪問だけでなく、教科部会や授業参観の機会を設けることで、小中学校の職員の相互理解をさらに深める。 ・ 小中合同あいさつ運動等、今後も児童生徒の交流がさらに深まるような取組を計画する。
5- (2) 主 体 性 と 独 自 性 を 生 か し た 学 校 経 営 の 推 進 5- (3) 地 域 と 連 携 ・ 協 働 し た 学 校 づ く り の 推 進	A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒肯定的回答 85%以上 地域住民アンケート「学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。（魅力ある学校づくり地域協議会、学校支援ボランティア、企業等、地域の教育力を生かした教育活動など）」 ⇒肯定的回答 80%以上	・ 5月以降実施できるようになった活動が増えたので、ノウハウを共有するなど、関係機関と連携を深めながら内容を工夫し、年間を通して活動を充実させていく。	A 【達成状況】 ・ 児童の肯定的回答率は 90.2% ↑ (89.5%)を示し、数値指標 85%を上回っている。 ・ 地域住民の肯定的回答率は 82.4% ↓ (90.0%)で、昨年度の数値よりは下がったが数値指標 80%を上回った。 【次年度の方針】 ・ 登下校の見守り、図書ボランティア、作品ボランティア、ミシンボランティア、学級懇談会での児童見守り、町探検などの活動を充実させ、地域の方々に助けていただく機会をさらに増やしていく。また、五代っ子フェスタなど子供や保護者、地域の方々が楽しめる行事（地域の活動）をさらに活性化していく。
6- (1) 安全で快適な学校施設整備の推進	A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・ 月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童の身体の状態に応じたバリアフリー化を図る。 ・ 各教室や廊下、準備室、倉庫などの整理整頓に努め、安全に配慮する。	B 【達成状況】 ・ 保護者の肯定的割合は 89.2% ↑ (87.7%)を示し、昨年度の数値および今年度の数値指標を上回った。 ・ 教職員の肯定的割合は 96.9% (96.8%)を示し、昨年度の数値と同程度であった。 【次年度の方針】 ・ 月に1度の安全点検や日常的な点検を実施するとともに、配慮児童の身体の状態に応じたバリアフリー化（エレベーターや多目的トイレを増やすなど）を目指す。 ・ 各教室や廊下、準備室、倉庫などの整理整頓にさらに努め、安全に配慮する。
6- (2) 学校のデジタル化推進	A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。 【数値指標】 教職員アンケート「私は、授業（授業準備も含む）や業務に、各種システムやツール※を積極的に活用している。」 ※学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど ⇒肯定的回答 80%以上	・ 校務用パソコンや1人1台端末を使用した学習教材の準備・確認をし、教材の内容や使い方を教職員が共通理解することで、授業ですぐに使用できるようにする。さらに、専門性の高い支援者（ICT支援員等）と連携を図る。	A 【達成状況】 ・ 教職員の肯定的回答率は 100.0% (93.5%)で数値指標 80%を上回っている。 【次年度の方針】 ・ 1人1台端末の発達段階に応じた指導方法を継続的に研修していくことで、学習指導に生かしていく。 ・ I C T支援員との連携を密に行うことで、学習指導や業務の効率化に生かしていく。

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等	B 1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 85%以上 保護者アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・相手の目を見て、挨拶することや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 ・全教職員で、挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返す行い、挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校体制で推進する。 ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.7% ↓ (91.4%) で昨年より下がったが、数値指標 85%は上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 80.2% ↑ (74.9%) で、昨年度の数値や今年度の数値指標を上回った。 ・教職員の肯定的回答率 78.1% ↓ (87.1%)、地域住民 75.0% ↓ (81.8%) であった。 【次年度の方針】 ・全教職員で、挨拶が上手にできている児童を称賛していく。またその児童を担任に伝える。 ・学級において、挨拶について話し合い、称賛及び指導を繰り返す行い、挨拶の習慣化が図れるようにしていく。 ・教師自身が手本を示し、率先して挨拶をすることで、挨拶を返したり、自分から挨拶したりできるよう全校体制で取り組む。(朝や登校中の挨拶が特に小さい) ・時と場や人に応じた挨拶の仕方を繰り返し指導していく。 ・各種たよりや学校ホームページ等に挨拶推進の取組を紹介したり、挨拶を啓発する内容を載せたりすることで、地域や家庭との連携を図る。 ・児童会や生活委員会などによる挨拶運動をより充実させていく。低学年でも挨拶をしたくなるような取組を考える。
	B 2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・「五代の子の一日」は、年度始めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・児童指導部会の場で、各学年および学校の児童の実態を把握し共通理解を図り、対応策、または諸問題行動の予防策を考え、きまりやマナーを守ることが全校体制で推進していく。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるようにして指導の徹底を図っていく。 ・五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・HP や便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 89.4% ↓ (90.5) で、数値指標 80%を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率 88.3% ↑ (88.0%)、地域住民 87.5% ↓ (90.9%)、教職員 87.5 ↑ (80.6) であった。 【次年度の方針】 ・「五代の子の一日」は、年度始めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りカードを活用し、児童一人一人が自身の行動を振り返り、目に見える形で行えるよう実施する。 ・職員会議後の児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報交換やケース会議などにおいて、児童理解を深めるとともに、組織的に対応できるようにして指導の徹底を図っていく。 ・五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 ・HP や便り等を活用して、児童の様子を保護者や地域に発信していく。 ・交通安全のマナーが守れていない児童が多いので(ヘルメット無着用、2列以上で歩く、信号無視など)、交通ルールに関する指導を徹底していく。

	B3 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・ICT機器や学習端末を活用するなど、活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。	B 【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 86.8% ↓ (90.9%) で、数値指標 90%を下回っている。 【次年度の方針】 ・学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行っていく。 ・アンケートを基に、計画的に教育相談を行い、児童一人一人を受容的な態度で受け止め、児童に寄り添う姿勢を全教職員が継続していく。 ・職員研修等を通して、学級満足度調査（Q-Uテスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 ・学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を密に行い、協力して児童が安心して楽しく学校生活が送れるようにする。また、担任が一人で抱え込まないように、必要に応じてケース会議を開き、組織的に対応をしていく。 ・ICT機器や学習端末を活用するなど、活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。 ・学級活動や休み時間に友達と交流を深める場面を意図的に増やしていくことで、児童同士がよい関係を築いていけるように橋渡しをしていく。 ・縦割り班活動・なかよしタイムなど異学年交流をより充実させていく。
	B4 児童は、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる。」 ⇒肯定的回答 80%以上	・イベントや取組を、可能な範囲で継続し、読書活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書では、学年の「必読図書」の読書を奨励し、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本に触れる時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。	B 【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 69.3% ↑ (67.8%) を示し昨年度の数値を上回ったが、数値指標 80%以上には達していない。 ・保護者の肯定的回答率は 61.0% ↑ (56.9%)、教職員は 93.8% ↓ (100.0%)、地域住民は 84.6% ↑ (66.7%) であった。 【次年度の方針】 ・今年度行ってきたイベントや取り組みを精選し、児童がより本に興味をもてるような活動を推進していく。 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。 ・朝の読書がさらに充実するように、学年の「必読図書」の読書を奨励する。また、時間までに「物語」の本を選び、着席するようにする。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」を年2回実施し、家庭での読書習慣の形成の一助とする。

B5 学校は、学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています。」 ⇒肯定的回答 85%以上	・年2回家庭学習強化週間を実施し、家庭と連携して児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 85.5% ↑ (84.6%)を示し、数値指標 85%を上回った。 ・保護者の肯定的回答率は 80.6% (80.9%), 教職員は 100% (100.0%), 地域住民は 68.8% ↓ (88.9%)であった。 【次年度の方針】 ・引き続き、年2回家庭学習強化週間の内容をさらに充実させ、家庭と連携して児童の学習意欲を高め、家庭学習の習慣化を図っていく。 ・今後も児童が主体的に学習に取り組めるように具体的な内容や方法を示したり、手本となる取り組みを伝えたりしていき、家庭学習の過程や成果を称賛しながら意欲を高めていく。また、その様子を保護者にも伝える。
B6 教職員は、児童が主体的に学習に取り組むことができるような指導法を工夫している。 【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分から進んで勉強に取り組むことができるように教えてくれる。」 ⇒肯定的回答 90%以上	・各教科等において、児童が興味関心をもてる学習課題を設定し、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 ・学習端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」態度の育成に取り組む。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 94.1% ↑ (93.5%)を示し、数値指標 90%を大きく上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 80.8% ↑ (77.6%), 教職員は 100% (100.0%), 地域住民は 86.7% ↓ (100%)であった。 【次年度の方針】 ・各教科等において、児童が興味関心をもてる学習課題を設定し、主体的に学習に取り組み、自分の学びを深めていけるよう支援する。 ・コグトレオンラインを朝の活動に位置づけ、認知機能を高めるトレーニングを継続して行うことで、基礎学力の土台づくりをしていく。 ・1人1台端末、ホワイトボード、実物投影機等を効果的に使い、「発表する」「伝える」等表現力の育成に取り組む。 ・A I ドリルを活用し、児童が主体的に学習に取り組めるよう支援する。
B7 学校は、道徳教育や授業、様々な活動等を通して「心の教育」を推進し、豊かな人間性を育てている。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年：道徳や授業、体験活動など)は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒肯定的回答 90%以上	・道徳科の授業では、教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 ・幼保小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 ・なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 94.0% ↑ (93.9%)を示し、数値指標 90%を大きく上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 87.0% ↑ (86.0%), 教職員は 96.9% ↓ (100.0%), 地域住民は 93.3% ↑ (90.0%)であった。 【次年度の方針】 ・道徳の授業では、児童の発達段階に応じた心に響く道徳教育の充実を図る。 ・道徳教育だけではなく、様々な活動を通して、児童の発達段階に応じた心の教育を推進していく。 ・なかよしタイムや縦割り班清掃などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・児童・教職員・保護者・地域住民とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている。

児童は22項目中21項目↑（昨年度20項目）、教職員は27項目中24項目↓（昨年度27項目）、保護者は20項目中16項目↑（昨年度13項目）、地域住民は14項目中12項目↓（昨年度13項目）

・児童は、昨年度より肯定的回答が3ポイント以上高くなった項目が3項目あり、3ポイント以上低くなった項目は1項目あった。教職員は、昨年度より肯定的回答が3ポイント以上高くなった項目が7項目、3ポイント以上低くなった項目は13項目あった。保護者は、昨年度より肯定的回答が3ポイント以上高くなった項目は6項目、3ポイント以上低くなった項目が1項目あった。地域住民は、昨年度より肯定的回答が3ポイント以上高くなった項目が3項目あり、3ポイント以上低くなった項目が8項目あった。前年度との比較において児童と保護者の評価は高くなったが、教職員と地域住民の評価は低くなったと言える。評価が低いものについては真摯に受け止め、次年度に向けて対応を検討していく。

・昨年度と比較して数値が伸びている項目は次の6つである。

A8「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」

教職員 96.8→100.0, 保護者 84.0→84.1, 児童 85.2→86.0

（【数値指標】児童の肯定的回答85%以上）

A15「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」

教職員 96.8→100.0

（【数値指標】教職員の肯定的回答90%以上）

A16「勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」

教職員 87.1→93.8

（【数値指標】教職員の肯定的回答85%以上）

A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」

保護者 74.3→81.7, 児童 85.5→89.7

（【数値指標】児童の肯定的回答80%以上）

A20「コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。」

教職員 93.5→100.0,

（【数値指標】教職員の肯定的回答80%以上）

B4「児童は、進んで本を読んでいる」

保護者 56.9→61.0, 地域 66.7→84.6, 児童 67.8→69.3

（【数値指標】児童の肯定的回答80%以上）

・課題が残った項目は次の3つである。

A2「児童は、思いやりの心をもっている。」

教職員 93.5→87.5, 保護者 90.6→89.7, 地域 100.0→100.0, 児童 88.7→87.5

（【数値指標】保護者の肯定的回答90%以上）

B1「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」

教職員 87.1→78.1, 保護者 74.9→80.2, 地域 81.8→75.0, 児童 91.4→86.7

（【数値指標】保護者の肯定的回答90%以上）

B3「児童は、楽しい学校生活を送っている。」

教職員 100.0→100.0, 保護者 96.1→93.6, 地域 100.0→100.0, 児童 90.9→86.8

（【数値指標】児童の肯定的回答90%以上）

・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が高かったものはB3「児童は、楽しい学校生活を送っている」93.6%、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」91.9%、A13「学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。」91.9%、A2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」89.7%、A12「教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。」89.4%、A19「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」89.2%であり、学校の取組に対して理解を示していることがうかがえる。

・保護者の回答で「児童は、宇都宮の良さを知っている。」は、高学年の総合的な学習の時間に宇都宮学が入り、宇都宮市の良さを学ぶようになったことが保護者の理解にもつながり、ここ数年で数値が上がっている。今後もさらに自分の住む宇都宮市や五代地区を知り、この町（地域）が好きになれるように学習を進めていきたい。

○A17「学校は、『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている」の肯定的な回答の割合は、教職員は90.6%、保護者81.7%、地域住民86.7%、児童89.7%である。前年度と比較すると、保護者の割合は7.4ポイント、児童の割合は4.2ポイント上昇しているが、教職員と地域住民は下がっている。今後は、WGS（小中合同）あいさつ運動をさらに盛り上げるために地域住民を巻き込んだり、五代っ子フェスタなどさまざまな行事を地域にPRして実施したりしたい。

・昨年度児童、保護者、地域の中で圧倒的に低い評価項目だったB4「児童は、進んで本を読んでいる。」の肯定的な回答の割合は、児童69.3%↑（昨年67.8%）、保護者61.0%↑（昨年56.9%）、地域84.6%↑（昨年66.7%）となり、評価が上がった。これは、今年度司書教諭と図書館業務司書、国語科主任を中心に、年間を通して学校全体で読書活動の推進に取り組んできた成果だと考えられる。しかしながら、児童の肯定的な回答80%の数値目標に到達していないので、今後もさらに児童が進んで読書をするような取組を学校全体で盛り上げていきたい。

・児童の回答では、22項目中7項目において90%を超えており、学校で教職員が熱意をもって児童への指導に当たっており、そのことが児童にしっかりと受け止められ、教職員と児童との信頼関係が構築されているものと考えられる。特に、A11「教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。」の児童の肯定的な回答は、95.9%となり児童の全回答の中で1番高い評価となっている。しかしながら、A3「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」は、昨年度の児童の肯定的な回答91.4%から今年度86.7%と、下がっていることが気になる点である。次年度は、小中合同のあいさつ運動だけでなく、生活委員や児童委員など子供たちを中心に学校全体で明るいあいさつが自然とできるような取組を考え、実践していきたい。

・児童の評価と教職員の評価に大きな差がある項目については原因を検討し、両者の意識に差がないようにしたい。

7 学校関係者評価

・スクールガードの組織（地域協議会、PTA、育成会、自治会などを中心に子供たちを守る組織）を作る必要がある。→それぞれの代表の人たちが集まり、子供たちを見守る方法について話し合う会議を来年度は開催する方向で。持続可能な、これからも子供たちの安全を守り続けていけるような組織作りをするにあたっては、今後も協力をお願いしたい。

・学区での事故が心配なので、子供たちに十分気を付けてほしい。また、子供たちは学校に来るときは1列で登校しているが、帰りはふざけながら帰っている子供もいて危ないと感じることがあるので、学校でも子供たちの指導をしてもらいたい。→五代小の学区は危険箇所が多いので、今後も折に触れて指導を継続する。

・「五代っ子フェスタ」は、天気にも恵まれて、先生方のバンド、アフリカンダンス、キッチンカーなど大盛況だった。たくさんの方が参加者がいた。なるべくお金をかけないで、子供たちが楽しめて、また地域の方も皆が楽しめるものが何かできないかということで一緒にずっと意見をぶつけさせていただいた。子供たちからは「かなり楽しかった」「本当によかった」という言葉を聞くことができた。子供たちの笑顔がたくさん見られてよかったと感じている。

・学習支援のボランティアは、保護者を中心に地域の方々などたくさん参加していただいきありがたかった。皆、和気あいあいと楽しそうに活動していた。

・コロナが明けて、年末から年始はインフルエンザも流行ったけれど、子供たちが元気になった。先日の給食の時間の様子を見て、楽しく新しい形でやられているなっていうのを感じたので、感謝している。

・トイレの汚れと臭いが気になる。また、和式便器がまだあって、体育館と外のトイレの工事をしてもらいたい。→学校施設の改修については、トイレやエアコン、給食室などいろいろなところで不具合が出ているが、その都度市教委に連絡し順番待ちをしているような状態である。できることはやっているが、時間が必要である。

・幼保小連携と地域交流ということで、2年生の子供たちがたくさん町探検で来たが、卒園児が多かったので、挨拶が元気にできているなと感じた。

・学校で「挨拶しなさい。」と言っても難しいところがあるので、家庭でも指導していくべきである。近所の人に挨拶するときは、その人の名前を言ってから挨拶するという方法もある。挨拶はすごく大切なので、目を見て大きな声で挨拶をするなど小さなことの積み重ねが大切である。→挨拶については、学校の方でもやはり重点課題として取り組んでいかなければいけない。子供たちは挨拶ができないというわけではないが、外に出るとできなかつたり、登下校のときだとできなかつたりする。地域の皆様に温かく声を掛けていただくことによって、子供たちの心もほぐれていくと感じるので、温かい五代地区になってほしい。

・給食の献立について、組み合わせや色合いなどを考えてほしい。また残飯量が増えないように工夫してほしい。→給食は、各宇都宮市内の学校には全ての学校に栄養士・栄養教諭等が配置されていて、市の標準献立というのがある。カロリーや食材などが決められている中で作っている。また、物価高騰において今現在決められた非常に厳しい金額で工夫して給食を提供している。子供たちが残さないような美味しいメニューというものを工夫しながらやっているところだが、なかなか今の子供たちの食生活において難しいところであると感じているので更なる工夫が必要である。また、来年度給食費の値上げもせざるを得ない状況であるというのは事実である。

8 まとめと次年度へ向けて

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・挨拶に関しては昨年度よりも数値が下がったので、次年度は学校全体で継続して取り組んでいく他にも、保護者や地域にも協力を仰いで学校・保護者・地域が三位一体となって策を講じて取り組んでいく。自然と挨拶ができる子供たちに育つよう温かい五代地区を目指していく。
 - ・子供たちの安全を守り続けていけるような組織（スクールガード）を作り、話し合う会議を開催する。また、学校では今後も子供たちの安全指導を徹底して行っていく。
 - ・学校施設の改修については、不具合が出ている箇所を含め今後もその都度市教委に状況を報告し、学校で対応できることはなるべく早く進めていく。
 - ・学校で行われる全ての活動において道德教育の充実を図るとともに、全職員で意図的、積極的に児童の優しさや思いやりを認め、褒めていく。
 - ・児童が楽しいと思えるような活動を授業だけではなく、様々な学校生活の場面（ロング昼休み等）で取り入れていく。
 - ・「五代っ子フェスタ」は、なるべくお金をかけないで、子供たちや保護者、地域の方など皆が楽しめるようなイベントになるように地域協議会やPTA、学校が協力して行っていく。
 - ・ICT（Information Communication Technology）の活用については、これからは使えるのは当たり前であることを前提として、教育的効果を考えて「いつ」「どこで」「どのように」使うかを考えて子供たちを指導していく。
 - ・今後もいじめや不登校対策を充実させ、多様な教育的ニーズへの対応を強化し、一人一人を大切にした教育を学校全体で取り組んでいく。
 - ・読書、食育、歯磨きなど〇〇週間の期間は、学校だけではなく、家庭にも協力を呼び掛けて保護者と一緒に取り組んでいく。
 - ・来年度も学校における働き方改革の推進に取り組む。業務改善については、風通しのよい職場になるようにアイデアを出し、できることとできないことを検討し、できることはどんどん実践していく。
- 小中連携の取組の更なる拡充や小中連携のカリキュラムマネジメントの充実といった試みを通して、地域学校園の一層の連携を図っていく。
- ・学力向上は五代小の課題である。来年度はコグトレを取り入れて3年目になるので、その効果を検証したい。さらに、学力向上の手立てなどを検討していく。
 - ・給食については、物価高騰において非常に厳しい金額で工夫して提供している。子供たちが残さないような美味しい献立を工夫しながら作っているが、更なる工夫が必要である。また、来年度給食費の値上げもせざるを得ない状況である。
 - ・今年度も学校だよりや学年だより、ホームページ等を活用し、学校のことや児童のことについて情報を発信することができた。次年度も継続して行う。
 - ・保護者と地域の皆様からは、概ね良好な評価をいただいているが、昨年度より評価が下がってしまった項目や厳しいご意見をいただいている記述もある。各項目の「次年度の方針」を共通理解し、さらに信頼される学校を目指し、教職員一丸となって教育活動に取り組んでいきたい。